

LDA-1 (AD) 使用上の注意

- ① 2ポール構成のアンプではオープンループゲインが12dB/octで減衰しますので帰還抵抗に適切な補償コンデンサ C_r を付けないと必ず発振します。LDA-1の帰還抵抗は4.7k Ω 程度が適当で、これに「補償グラフ」で求められる C_r を並列に入れて下さい。もし、雑音低減等のためにRの値を変更したい時は時定数が同じになるようにします。同グラフの安定側マークは適当な定数がない時、この方向に定数を多少変更しても構わないという意味です。2倍以上の変更では逆に不安定になることがあります。
- ② 本機はひずみ特性、安定性を最優先にした設計で、入力オフセットの安定性は必ずしも優れている訳ではありません。高増幅度のDC通過型アンプとして使用するときには注意して下さい。
- ③ 負荷抵抗は500 Ω 以上で使用して下さい。
- ④ 10k Ω 以下ならば入力側の信号源抵抗が大きくても低ひずみです。
- ⑤ 電源電圧は $\pm 15V$ でも十分な性能が得られますが、 $\pm 20V$ で使用すると出力も大きくとれ、本機の性能を最大限に引き出すことができます。
- ⑥ 本機はCDプレーヤのI/Vコンバータとして使用することができます。
(詳しくは当社までお問い合わせ下さい)

★ 参考図 「ユニティゲイン時の出力電圧-ひずみ特性」

